

岡崎よしあき 区政報告会について

2月11日(金・祝)の13時30分より、本郷小学校にて「岡崎よしあき区政報告会」が開催されました。

当日は、雪が舞う、あいにくの天候でしたが、多くの参加者で会場はいっぱいに。また、竹谷とし子参議院議員も駆けつけてください、熱気あふれる区政報告会となりました。以下、岡崎よしあきの区政報告(要旨)を掲載します。

| 高齢者サポートについて

文京区には、独り暮らしの高齢者が約1万人いらっしゃる。昨年の全国的な高齢者の不在問題を受け、文京区も独り暮らしの高齢者のサポートについて検討を重ねてきた。その中で、地域の協力のもと進めている高齢者安心見守りネット事業についても区として拡充を検討している。

特に、緊急通報システムの検討においては、介護保険を利用し、24時間訪問介護ヘルパーさんの訪問で見守りをおこなう葛飾方式や、台所や居間にセンサーを設置し、人の動きを感じない時に通報するシステムを導入した徳島県美馬市方式など、幅広く検討を進めている。

住み慣れた文京区に高齢者が安心して暮らすことができるよう、独り暮らしの高齢者の皆さまのサポートに取り組みを進めている。

メルマガ会員を募集しております。

メルマガ登録を行っていただきますと、あなたのお手元に岡崎よしあきからのメールマガジンが届きます。

P-okazaki@a.bme.jp に空メールを送り登録してください。



おかちゃんのかわら版 2011 Spring Version

発行:岡崎よしあきを励ます会
Tel/Fax:03-3813-6099 Mail:yoka@d3.dion.ne.jp
ホームページ <http://www.yoshiaki-okazaki.jp/>
ブログ <http://ameblo.jp/okazaki-yoshiaki/>



| 地域経済の活性化について

文京区には20の大学がある。学生の多い文京区の特色を活かし、産(企業)と学(大学)と官(行政)が連携し、地域経済を活性化できないかということを調査・検討している。

経済の活性化の課題は、区レベルで、現場を歩いて、リーマンショックの後遺症に悪戦苦闘されている中小零細企業を元気にする対策を私なりに考え推進していきたい。

| 子育て支援について

昨年4月、保育事業の待機児童が100名を超え、待ったなしの状況となった。すぐ、公明党区議団で成澤区長に緊急要請として改善を申し入れた。

その結果、今春の4月から西片に90名規模の私立認可保育園が、小石川には40名規模の私立認可保育園が開設する予定となり、入所・入園を心待ちのお母さん方から喜びの声が寄せられている。



岡崎と湯島環境浄化パトロール

平成11年4月、岡崎は区議会議員に初当選した。議員活動を始めた直後、岡崎の住む湯島地域で、街の環境が話題となった。

「どこを歩いても安全な街にしたい」「子どもたちが伸び伸びと登下校できるよう、大人たちで、なんとかできないか」と。

議員としてより、一人の人間として、地域のために尽くしたいとの岡崎の思いと、地域の方々の献身的な努力が実を結び、湯島地域の環境浄化パトロールが始まった。この環境浄化パトロールも、この2月で245回を数えた。

岡崎は語る。「区議会議員の仕事は、地域の皆さんとともに考え、ともに汗することから始まる。これからも全力で地域に尽くしたい」と。

防災に対する取り組みも

岡崎の地元にSYMという自主防災グループがある。SYMとは地元3町会の新花会、三組弥生会、三組町会の略称。安全・安心の街づくりのため、岡崎は地域住民と力を合わせ取り組んでいる。

文京の大地に 安心の種・元気の種・ シアワセの種を

岡崎の取り組む重点政策

1.身を切る改革で、財源確保!

- ①議員定数の削減と、議会の見える化を推進し、議会改革に取り組んでまいります!
- ②職員定数を削減し、税金のムダ遣いを無くして行財政改革に取り組んでまいります!

2.産学官の連携で、経済を活性化!

- ①企業と大学と区の連携を強めて若者の雇用を促進し、中小零細企業を元気にします!
- ②文京の豊富な観光資源を活用した振興策で、地域の商店街にぎわいを創ります!

3.福祉の充実で、住み良い街づくり!

- ①高齢者が安心して暮らせるよう「高齢者安心見守りネット事業」を推進します!
- ②妊婦健診時にHTLV-1の抗体検査を導入し、カウンセリング体制を確立します!

岡崎の○○な話



よく見える話

住宅地内の通学路で出会い頭に車同士が接触した。危うく大事故という状況に住民からは心配の声が。岡崎は道路課に迅速な対応を要請した。その熱意もあって、異例の早さで安全ミラーが設置された。今、安全ミラーの設置で「よく見える」ようになった道を子どもたちは安心して歩いている。

はちあわせになった話

「軒下にミツバチが巣を作り危ない」と岡崎に連絡が入った。ただちに環境対策課(現・環境政策課)に対応を依頼するも「スズメバチ以外は対応できない」との回答。意を決した岡崎は、相談元の住民と、手袋、マスク、ごみ袋で防護し、殺虫剤を片手にハチの巣と格闘。見事に駆除を成功させ、住民の安全を確保した。

片づけられた話

自転車が20数台、山積みで放置され危険な状況に。住民から他党の地元議員に撤去を依頼するが、自転車は放置されたまま。「やっぱり岡崎議員しかいない」と岡崎に連絡したところ、1ヶ月後には放置自転車は撤去。岡崎の「すぐやります!」の姿勢に住民はひと安心。

明るくなる話

「夜になると暗くて安心して歩けません」との相談を受け、設置や整備した街灯は50本を超える。なかなか設置されなかった場所や私道に設置。保安灯も設置した。湯島の新スポット「サッカーパーク」の街灯の増設・整備も手がけた。岡崎は街を明るくする男。

心から感動する話

高齢者ご夫妻のお宅。認知症の奥さんを介護するご主人が突然体調を崩した。連絡を受けた岡崎はただちに駆けつけた。ご主人は救急車で搬送されたが、さいわい大事に至らず病院の車で帰宅した。しかし、その車が大通りから自宅前まで入れない。外には雨が降りしきる。岡崎は傘を差し車まで走った。そして浴衣姿のご主人を、背中におぶって自宅まで運んだ。ご主人は岡崎に「ありがとう」と感謝の心を伝えた。